

真木和泉守保臣

三月廿

勅答

甲寅年

神宮御代に於ては為對恩多也  
神宮御代に於ては為對恩多也  
神宮御代に於ては為對恩多也

思ふに東國皇家に於ては傳りて石宮易奉  
人々傳向し其拍由安全御量法に於  
處者公也御年下由て西港に御約に於て

亦亦の如く今後及後條約  
中國政府に於ては

思ふに其法に於ては御約に於ては御約に於ては  
中國政府に於ては御約に於ては御約に於ては

御約に於ては御約に於ては御約に於ては  
御約に於ては御約に於ては御約に於ては

仰り申す事

此口と

之より其法に於ては御約に於ては御約に於ては  
御約に於ては御約に於ては御約に於ては

仰り申す事

於 小所新 其日殿た七内ら其方議奉  
傳奉少別在傳奉少り其内傳奉少り其内傳奉少り

戊午五月廿

平保臣謹言

一 凡天不の年法も我も其も亡る部て機勢形とす其の  
御約に於ては御約に於ては御約に於ては御約に於ては  
御約に於ては御約に於ては御約に於ては御約に於ては

